

- 問1 戦国大名が自らの領国内を独自に統治するために定めた、一族や家臣、領民が守るべききまりを何といいますか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 武家諸法度
 2. 御成敗式目
 3. 分国法
 4. 慶安の御触書
- 問2 戦国時代において、下の身分の者が上の身分を圧倒する「下剋上」の風潮が広まった背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
1. 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。
 2. 農業技術が向上したことで農民が完全に自立し、武士による支配が消滅したため。
 3. 朝廷が新しい官位制度を導入し、能力に応じた地位をすべての人々に与えたため。
 4. 幕府が強力な中央集権体制を確立し、地方の武士に直接命令を下すようになったため。
- 問3 戦国大名が、室町幕府の法律があるにもかかわらず、独自に分国法を制定する必要があった背景として最も適切な理由はどれか。 (2021年 京都府公立入試 類似)
1. 元寇による社会の混乱を鎮め、分割相続によって困窮した御家人の生活を救済する必要があったため。
 2. 貨幣経済が浸透し、外国との貿易による利益を独占するために全国共通の商業ルールが必要になったため。
 3. キリスト教の布教を制限し、仏教を基盤とした道徳的な領国経営を行う必要があったため。
 4. 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。
- 問4 16世紀半ば、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが日本を訪れ、キリスト教を伝えた当時の世界情勢に関する説明として最も適切なものはどれか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
1. ルネサンスによる科学の発達により、日本の戦国大名から西洋の進んだ宗教や文化を導入したいという正式な要請があった。
 2. 宗教改革によって誕生したプロテスタントの諸国が、アジアにおける植民地支配を広めるために宣教師を派遣していた。
 3. ヨーロッパで宗教改革が起こり、勢力を立て直そうとするカトリック教会が海外への布教を積極的に進めていた。
 4. 十字軍の遠征が成功したことで、キリスト教勢力がイスラム教勢力を圧倒し、アジア全域での布教が容易になっていた。
- 問5 戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。 (2023年 滋賀県公立入試 類似)
1. 平戸
 2. 長崎
 3. 堺
 4. 博多
- 問6 ポルトガルがバスコ・ダ・ガマを派遣し、アフリカ南端を経由するインドへの新航路を開拓させた主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
1. 地動説を証明するために、西回りで航海して地球を一周することが目的であったため。
 2. イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。
 3. 北アメリカ大陸にあると信じられていた黄金の国「ジパング」を探索するため。
 4. 当時中国を支配していた元との貿易を拡大し、絹織物や陶磁器を大量に輸入するため。
- 問7 戦国大名の武田氏にゆかりのある、現在の山梨県に位置する武田神社付近には、かつて大名の館を中心とした町が形成されていました。このように大名が家臣や商工業者を集めて町を作った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. 有力な寺社への参拝客を増やすことで、宗教的な権威を利用して領民を支配するため
 2. 交通の要所に休憩所を設けることで、旅人の利便性を高め、通行税を徴収するため
 3. 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため
 4. 海外との貿易を独占するために、海岸線に面した土地に防衛拠点を築くため
- 問8 戦国時代、九州の種子島に伝来した武器をきっかけとして始まった南蛮貿易について、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)
1. 銀や銅を輸出する代わりに、欧米から蒸気機関などの近代技術が導入された。
 2. キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。
 3. キリスト教の布教は厳しく制限され、貿易の窓口は長崎の出島に限定された。
 4. 幕府の許可を得た朱印船により、東南アジア諸国との間で盛んに行われた。
- 問9 戦国大名が定めた独自の法律の中には、「喧嘩（けんか）両成敗」のように、家臣同士の私的な争いを厳しく禁じる規定が多く見られます。このような厳しい法を大名が制定した背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
1. 家臣たちの実力を認め、それぞれの領地での自由な行動を促すため
 2. 家臣同士の私的な紛争を抑え、領国内の団結と大名による統治権を強めるため
 3. 天皇から授けられた裁判権を行使して、公家社会の秩序を維持するため
 4. 室町幕府が定めた全国一律の裁判基準を、各地の家臣に徹底させるため
- 問10 16世紀半ば、種子島にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に新しい兵器が伝えられた出来事について、その後の歴史に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
1. この兵器は元軍が日本に襲来した際に初めて伝えられたもので、鎌倉幕府が滅亡する直接の原因となった。
 2. この兵器の伝来により、騎馬武者が名乗りを上げて一対一で戦う伝統的な戦術がより一層重視されるようになった。
 3. この兵器は朱印船貿易が最も盛んだった江戸時代初期に初めて日本にもたらされ、幕府の軍勢力を支えた。
 4. 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。
- 問11 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景や目的として、最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 鎌倉幕府が御家人たちの領地争いを裁判によって公正に解決し、武士の支持を集めようとしたから
 2. 明治政府が近代的な国家を建設するために、西洋の法制度を取り入れて国民の権利を定めようとしたから
 3. 江戸幕府が大名たちの婚姻や城の修理を制限し、全国の諸大名を統制しようと考えたから
 4. 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから
- 問12 応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何といいますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
1. 武家諸法度
 2. 御成敗式目
 3. 公事方御定書
 4. 分国法
- 問13 戦国時代、室町幕府の支配力が弱まる中で、各地の戦国大名が自らの領国内の家臣や領民を統制するために独自に定めた法律を何と呼びますか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 公事方御定書
 2. 御成敗式目
 3. 分国法（家法）
 4. 武家諸法度

答え合わせ・解説

問1	答え 3 分国法	室町幕府の権威が衰退する中で、戦国大名は自らの力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私闘の禁止や領民の統制を目的に制定された独自の法律が「分国法（家法）」です。これにより、大名は幕府の法に縛られることなく、領国内の秩序を維持しました。
問2	答え 1 応仁の乱によって幕府の支配力が弱まり、各地で実力による領国支配が行われるようになったため。	応仁の乱をきっかけに室町幕府の権威が失墜すると、従来の身分秩序や支配体制が崩れました。それまでの守護大名に代わり、実力で領国内を統制し、富国強兵を進める戦国大名が各地に出現したことが、下剋上の象徴的な現象です。
問3	答え 4 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。	応仁の乱以降、室町幕府の権威が失墜し、全国的な法秩序が機能しなくなりました。下剋上の風潮の中で生き残るため、戦国大名は独自の法を設けることで家臣の勝手な行動を制限し、領内を一貫して支配する体制を整える必要がありました。
問4	答え 3 ヨーロッパで宗教改革が起こり、勢力を立て直そうとするカトリック教会が海外への布教を積極的に進めていた。	ルターやカルヴァンによる宗教改革によってカトリック教会の権威が揺らぐ中、カトリック側は勢力回復のためにアジアやアメリカ大陸への布教を強化した。この流れの中で、1534年に結成されたイエズス会のザビエルが日本へ派遣されることとなった。プロテスタントが本格的に日本に関わるのは、17世紀のオランダやイギリスの来航を待つことになる。
問5	答え 3 堺	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。
問6	答え 2 イスラム商人やイタリア諸都市に仲介料を奪われず、高価な香辛料を直接入手するため。	中世ヨーロッパではコショウなどの香辛料が非常に高価でしたが、陸路の貿易はオスマン帝国やイスラム商人、地中海貿易はイタリアの都市国家に独占されていました。ポルトガルはこれらの中間搾取を避け、莫大な利益を得るために海路での直接取引を目指しました。
問7	答え 3 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため	戦国大名は、家臣を城の周囲に集住させる（集住政策）ことで、反乱を防ぐとともに戦時に素早く動員できる体制を整えました。また、商工業者に特権を与えて城下に呼び寄せ、城下町を経済の拠点とすることで、合戦に必要な物資や資金を安定して確保しようとした。これに対して、寺社の門前に発展した町は門前町、交通の要所に発展した町は宿場町と呼ばれます。
問8	答え 2 キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。	ポルトガルとの南蛮貿易では、戦国大名たちが武力強化のために鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を強く求めました。宣教師たちは貿易の利益を背景に布教活動への協力を求め、多くの戦国大名が貿易の利潤を得るためにキリスト教の布教を許可しました。
問9	答え 2 家臣同士の私的な紛争を抑え、領国内の団結と大名による統治権を強めるため	戦国大名にとって、家臣同士が私的な理由で争うことは、軍事力の低下や領国の混乱につながる大きなリスクでした。そのため、分国法を通じて「争いごとの解決は大名の裁定に従うべきである」という原則を確立させました。これにより、家臣たちを強力に統制し、領国全体を一丸となって運営する体制（領国支配）を整えようとしたのです。
問10	答え 4 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。	1543年（16世紀）に種子島へ鉄砲が伝来したことで、それまでの騎馬戦から足軽による集団戦法へと戦術が大きく変化しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げた堅固な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面で社会に劇的な変革をもたらしました。
問11	答え 4 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから	応仁の乱によって中央政府である室町幕府の権威が失墜すると、各地の大名は自らの力で領国を維持しなければならませんでした。領国内の紛争を解決し、家臣を団結させて軍事力を高めるために、独自の法律が必要とされました。選択肢にある「武家諸法度」は江戸時代、「御成敗式目」は鎌倉時代、「明治の法制度」は近代のものです。
問12	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとした。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問13	答え 3 分国法（家法）	室町幕府の権威が衰退し、守護大名が自立して戦国大名へと成長する過程で、自らの力で領国を維持・統治する必要が生じました。そこで、大名は幕府の法律に頼らず、独自の統治ルールとして分国法を制定しました。今川氏の『今川仮名目録』や武田氏の『甲州法度之次第』などがその代表例です。